

安全データシート(Safety Data Sheet)

ネイルリムーバー(アセトンフリー)

作成日 2023年04月11日

1.化学品及び会社情報

製品名:	ネイルリムーバー(アセトンフリー)
製品コード:	S-0005(1)
会社名:	三成化工株式会社
住所:	大阪府大阪市城東区関目 4-11-38
電話番号:	06-6932-3531
ファックス番号:	06-6932-3830
メールアドレス:	sanseikakou@sunny.ocn.ne.jp
推奨用途及び使用上の制限:	合成原料、溶剤、塗料溶剤

2.危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性:	爆発物	分類できない
	可燃性又は引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	区分に該当しない
健康に対する有害性:	エアゾール	区分に該当しない
	支燃性又は酸化性ガス類	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分 2
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
	急性毒性-経口	区分に該当しない
	急性毒性-経皮	区分に該当しない
	急性毒性-吸入(ガス)	区分に該当しない
	急性毒性-吸入(蒸気)	区分 4
	急性毒性-吸入(粉じん)	区分に該当しない
	急性毒性-吸入(ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B	

環境に対する有害性：	感作性－呼吸器	分類できない
	感作性－皮膚	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3 気道刺激性
		区分3 麻酔作用
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境有害性(急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性(長期間)	区分に該当しない
オゾン層への有害性	分類できない	

GHS ラベル要素

絵表示：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

[H225] 引火性の高い液体および蒸気
 [H320] 眼刺激
 [H332] 吸入すると有害
 [H335] 呼吸器への刺激のおそれ
 [H336] 眠気またはめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】：

[P210] 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 [P233] 容器を密閉しておくこと。
 [P240] 容器を接地しアースを取ること。
 [P241] 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
 [P242] 火花を発生させない工具を使用すること。
 [P243] 静電気放電に対する措置を講ずること。
 [P261] 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 [P264] 取扱い後は手をよく洗うこと。
 [P271] 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 [P280] 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】：

[P303+P361+P353] 皮膚(または髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水(またはシャワー)で洗うこと。
 [P304+P340] 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 [P305+P351+P338] 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

- [P312] 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- [P337+P313] 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
- [P370+P378] 火災の場合：消火するために粉末、二酸化炭素、泡消火器を使用すること。
- 【保管】： [P403+P233] 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- [P403+P235] 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- [P405] 施錠して保管すること。
- 【廃棄】： [P501] 内容物/容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物

	化学式	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	含有量
酢酸エチル	C ₄ H ₈ O ₂	141-78-6	(2)-726	85-95%
酢酸ブチル	C ₆ H ₁₂ O ₂	123-86-4	(2)-731 2-(6)-226	5-15%

4.応急措置

- 吸入した場合：
- ・被災者を空気の新鮮な場所に移す。
 - ・呼吸停止または呼吸が弱い場合は、人工呼吸を行う。
(衣類を緩め気道を確保する)
- 皮膚に付着した場合：
- ・汚染された衣服、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。
 - ・多量の水または石けん水で十分に洗い落とす。
- 眼に入った場合：
- ・清浄な流水で少なくとも 15 分間水で洗眼する。
 - ・洗眼の際、眼球とまぶたの隅々まで洗浄する。
 - ・コンタクトレンズは固着していない限り取り除いて洗浄する。
- 飲み込んだ場合：
- ・無理に吐き出させない。揮発性液体なので吐き出すと危険性が増す。
 - ・意識がない被災者には、口から何も与えてはならない。
- 予想できる急性症状
及び遅発性症状の
最も重要な兆候症状：
(酢酸エチルの情報)
- ・吸入：咳、めまい、し眠、頭痛、吐き気、咽頭痛、意識喪失、脱力感
 - ・皮膚：皮膚の乾燥
 - ・眼：発赤、痛み
 - ・許容濃度を超えてばく露すると、死に至ることがある。
- 応急措置をする者の保護：
- ・応急措置の際、救助者は自分の皮膚に触れたり、眼に入らぬよう注意する。

5.火災時の措置

- 消火剤：
- ・小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、乾燥砂
 - ・大火災：散水、泡消火剤

使ってはならない消火剤：	・火源へ直接に棒状注水
特有の危険有害性：	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 ・揮発性が高くかつ引火性の強い液体であり、空気との爆発性混合ガスを形成する。 ・加熱により容器が爆発するおそれがある。 ・蒸気が空気と爆発性混合気を生成するおそれがある。
特有の消火方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。 ・火元への燃料源を断つ。 ・消火作業は風上から行う。 ・周囲の可燃物設備を散水して冷却する。 ・移動可能な可燃物容器は安全な場所へ移す。
消火を行う者の保護：	<ul style="list-style-type: none"> ・消火作業は、適切な保護具(自給式呼吸器、防火服、防災面等)を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置：	<ul style="list-style-type: none"> ・漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 ・関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項：	<ul style="list-style-type: none"> ・風下の人を退避させ、漏出した場所から人を遠ざける。 ・ロープ等を張り関係者以外立入禁止とする。 ・作業者は適切な保護具『8.ばく露帽子及び保護措置の項を参照』を着用し、風上から作業する。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材：	<ul style="list-style-type: none"> ・付近の着火源を速やかに取り除く。 ・側溝、下水、河川に流出しないよう注意する。 ・蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
回収：	<ul style="list-style-type: none"> ・少量の場合、吸着材、土砂、ウエス等に吸収させ密閉可能な容器に回収する。 ・大量の場合、土嚢等で流れを止め(表面を泡消火剤で覆う)密閉可能な容器に回収する。その後は少量の場合に準じる。 ・水上に流出した場合、スキミング、吸収、固化(ゲル化剤)等で回収する。 ・回収には火花を発生しない道具を使用する。
二次災害の防止策：	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行う。
(局所排気・全体換気等)：	
安全取扱注意事項：	<ul style="list-style-type: none"> ・使用前に取扱説明書を入手すること。 ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 ・周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 ・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしない。 ・接触、吸入又は飲み込まないこと。

- ・眼に入れないこと。
 - ・取扱い後はよく手を洗うこと。
 - ・屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
 - ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 - ・環境への放出を避けること。
 - ・『10.安定性及び反応性』を参照。
- 接触回避：
衛生対策：
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 - ・取扱い後は手をよく洗うこと。
- 保管
- 適切な技術的対策：
- ・消防法の規定に従った技術的対策をとる。
 - ・保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
- 安全な保管条件：
- ・熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。
 - ・酸化剤から離して保管すること。
 - ・容器は直射日光や火気を避けること。
 - ・容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
 - ・施錠して保管すること。
- 混触危険物質：
安全な容器包装材料：
- ・『10.安定性及び反応性』を参照。
 - ・消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8.ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度 日本産業衛生学会	許容濃度 ACGIH TLV-TWA
酢酸エチル	200ppm	200ppm(2009年版)	400ppm(2009年版)
酢酸ブチル	150ppm	100ppm(2014年版)	150ppm(2014年版)

- 設備対策：
- ・屋内の取扱い場所は局所または全体排気装置を設ける。
 - ・取扱い場所の電気機器は防爆構造とし、機器類は静電気対策をする。
 - ・取扱い場所の近くに洗眼器・シャワーを設け、その位置を表示する。
 - ・取扱い後はよく手を洗うこと。

保護具

- 呼吸用保護具：
- ・防毒マスク(有機ガス用)、送気マスク、空気呼吸器
- 手の保護具：
- ・保護手袋(耐薬品性)
- 眼の保護具：
- ・保護眼鏡、ゴーグル
- 皮膚及び身体の保護具：
- ・保護長靴(耐薬品性)、防災面、保護服、保護前掛

9.物理的及び化学的性質

- 外観(物理的状态、形状、色など)： 無色透明な液体
- 臭い： 芳香臭
- 臭いのしきい(閾)値： データなし
- pH： データなし
- 融点・凝固点： データなし
- 沸点、初留点及び沸点範囲： 77-126.1℃

引火点：	0℃以下
蒸発速度：	データなし
燃焼性(固体、気体)：	データなし
爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	>1
比重(相対密度)：	0.898-0899
溶解度：	水に不溶、有機溶剤に可溶(混合)
n-オクタノール/水分配係数：	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし
粘度(粘性率)：	データなし

10.安定性及び反応性

酢酸エチルの情報

反応性、化学的安定性：	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の取扱い条件においては安定である。 ・流動、攪拌などにより、静電気が発生することがある。
危険有害反応可能性：	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化性物質等に触れると反応する危険性がある。
避けるべき条件：	<ul style="list-style-type: none"> ・加熱 ・蒸気は空気より重く、低所に滞留して爆発性混合ガスを作る。
混触危険物質：	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化剤
危険有害な分解生成物：	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などを発生する。

11.有害性情報

酢酸エチルの情報

急性毒性	
経口：	ラットのLD50値 4940mg/kg [PATTY(5th, 2001)]、5600 mg/kg(ACGIH(2001))、10100mg/kg [DFGOTvol.12(1999)]、11000mg/kg [PATTY(5th, 2001)] に基づき、区分外とした。
経皮：	ウサギに用量 18000mg/kg 24時間閉塞適用で死亡なしとの記述 [DFGOTvol.12(1999)] に基づき、区分外とした。
吸入(ガス)：	GHS の定義における液体である。
吸入(蒸気)：	ラットのLC50値 16000ppm(4時間換算：19600ppmV) [ACGIH(2001)]、14640ml/m ³ (比重から、13176g/m ³ ：3658ppmV) [DFGOT vol.12(1999)]、16000 ppm(4時間換算：13856ppmV) [ACGIH(2001)] に基づき、区分4とした。なお、飽和蒸気圧濃度 123289 ppmV より、気体と判断した。
吸入(粉じん)：	GHS の定義における液体である。
吸入(ミスト)：	データなし
皮膚腐食性/刺激性：	ウサギ皮膚に0.01mLを24時間開放適用した試験において、刺激性のスコア1(最大10に対し)で刺激性なし(not irritating)の結果 [IUCLID(2000)] に基づき区分外とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：	ウサギ4匹を用い試験物質原液 0.1mL を点眼した Draize 試験において、角膜混濁は2日目までに回復(4/4)、虹彩炎は2日までに回復(1/4)、結膜の発赤・浮腫・分泌物などは7日までに消失(4/4)し、24、48、72時間のMMAS(最大平均スコア)15.0との報告(ECETOC TR48(1998))に基づき区分2Bとした。なお、

呼吸器感作性又は皮膚感作性： EU 分類では、Xi、R36 に分類されている。
呼吸器感作性：データなし。
皮膚感作性：モルモットのマキシマイゼーション試験 (Maximization test: OECD TG406) で感作性なし [IUCLID (2000)] の報告、およびヒトで被験者 25 名を用い実施した Maximization 試験で感作性なしの結果 [DFGOT vol.12 (1999)] に基づき区分外とした。なお、過去の酢酸エチルによる感作性の疑いのある報告が 3 例ある。因果関係が不明な場合があり、また少数例でもあることから酢酸エチルの感作性の可能性は疑わしいと考えられている [DFGOT vol.12 (1999)]。

生殖細胞変異原性： マウスおよびハムスターに腹腔あるいは経口投与後の骨髓細胞を用いた小核試験(体細胞 in vivo 変異原性試験)でいずれも陰性結果(DFGOT vol.12(1999)、IUCLID (2000))に基づき区分外とした。なお、in vitro 変異原性試験として、Ames 試験・ハムスターの線維芽細胞を用いた染色体異常試験・CHO 細胞の SCE アッセイなどで陰性の結果が得られている。

発がん性： マウス腹腔内8週間投与試験が実施されている [IUCLID(2000)] が、データ不足のため分類できない。

生殖毒性： データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)： ヒトで 400ppm を 4 時間ばく露により鼻腔、咽喉と眼に軽度の刺激が報告されている [DFGOT vol.12(1999)、ACGIH(2001)]。また、ネコ、マウスで吸入ばく露、ウサギでは経口ばく露により、それぞれ LD50 または LC50 以下の用量で麻酔作用が記述されており、一過性であるとの記述がある(ACGIH(2001)、IUCLID(2000))。以上より、区分 3(気道刺激性、麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)： ラットを用いた 90 日間経口投与試験の NOAEL は 900mg/kg [環境省リスク評価第 6 卷(2008)]であった。ラットを用いた 13 週間吸入ばく露試験では刺激に対する反応の低下などの症状は 2700mg/m³/4h(9.73mg/L/4h:蒸気)以上で現れたが、機能観察総合検査でばく露に関連した異常はなく、NOAEL は 1260mg/m³/4h(1.2mg/L/4h)と報告されている [環境省リスク評価第 6 卷(2008)]。以上のように NOAEL がガイダンス値範囲の上限を超えていることから、経口および吸入ばく露では区分外該当するが、経皮投与によるデータがないので「分類できない」とした。なお、ヒトに対する影響では、靴工場における 1560ppm の職場環境で、刺激感などの特定できない症状を従業者 7 名が訴え、そのうち 4 名に気管支狭窄などが認められたとする報告 [DFGOT vol.12(1999)]もあるが、他の物質との混合ばく露であり分類の根拠としなかった。

吸引性呼吸器有害性： データなし

	酢酸エチル	酢酸ブチル
急性毒性－経口	区分外	区分外
急性毒性－経皮	区分外	区分外

急性毒性－吸入(ガス)	分類対象外	分類対象外
急性毒性－吸入(蒸気)	区分 4	分類できない
急性毒性－吸入(粉じん)	分類対象外	分類対象外
急性毒性－吸入(ミスト)	分類できない	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分外	区分外
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B	区分 2B
感作性－呼吸器	分類できない	分類できない
感作性－皮膚	区分外	分類できない
生殖細胞変異原性	区分外	分類できない
発がん性	分類できない	分類できない
生殖毒性	分類できない	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 3 気道刺激性、麻酔作用	区分 3 気道刺激性、麻酔作用
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない	分類できない

12.環境影響情報

酢酸エチルの情報

生態毒性

水生環境有害性(急性)： 魚類(ファットヘッドミノー)での 96 時間 LC50=230mg/L (SIDS, 2008,他)、甲殻類(オオミジンコ)での 24 時間 LC50=2,500mg/L(SIDS, 2008)であることから、区分外とした。

水生環境有害性(長期間)： 急性毒性区分外であり、難水溶性でない(水溶解度 =80000mg/L(PHYSROP Database、2009))ことから、区分外とした。

残留性・分解性： 情報なし
 生体蓄積性： 情報なし
 土壌中の移動性： 情報なし
 オゾン層への有害性： 情報なし

	酢酸エチル	酢酸ブチル
水生環境有害性(急性)	区分外	区分 3
水生環境有害性(慢性)	区分外	区分外
オゾン層への有害性	分類できない	分類できない

13.廃棄上の注意

残余廃棄物：

- ・廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- ・都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行なっている場合にはそこに委託して処理する。
- ・廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装：

- ・汚染容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14.輸送上の注意

国際規制

陸上規制情報： ARD/RID の規定に従う。
海上規制情報： IMO の規定に従う。
航空規制情報： ICAO/IATA の規定に従う。

国内規制

陸上規制情報： 消防法の規定に従う。
容器： 危険物の規制に関する規則別表第3の2
容器表示： 第1石油類、危険等級II、数量、火気厳禁
名称、製造者の名称及び住所
積載方法： 運搬時の容器積み重ね高さは3m以下
混載禁止： 第1類及び第6類の危険物、高圧ガス
海上規制情報： 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報： 航空法の規定に従う。
特別な安全対策：

- ・車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人へイエローカードを携帯させる。
- ・荷崩れ防止を確実にし、衝撃、転倒、落下、破損が生じないようにする。
- ・その他、当データシートの取扱い、保管上の注意事項を参照のこと。

国連番号： 1993
応急措置指針番号： 129

15.適用法令

消防法： 危険物 第4類 第1石油類 危険等級II 非水溶性液体(200L)
(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)
労働安全衛生法： 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)
有機溶剤中毒予防規則
(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)
第2種有機溶剤
名称等を表示すべき有害物(法第57条、施行令第18条)
酢酸エチル(政令番号：9-9)
酢酸ブチル(政令番号：9-10)
名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2
別表第9)
酢酸エチル(政令番号：177)
酢酸ブチル(政令番号：181)
作業環境評価基準(法第65条の2第1項)
酢酸エチル(政令番号：51)
酢酸ブチル(政令番号：52)
労働基準法： 疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1
の2第4号1・昭53労告36号)；酢酸エチル、酢酸ブチル
水質汚濁防止法： 事故時措置(指定物質)；酢酸エチル
大気汚染防止法： 揮発性有機化合物(VOC)；酢酸エチル、酢酸ブチル

悪臭防止法：	特定悪臭物質；酢酸エチル
海洋汚染防止法：	危険物 有害液体物質 Z 類；酢酸エチル 危険物 有害液体物質 Y 類；酢酸ブチル
船舶安全法：	引火性液体類(危規則第 2、3 条)
航空法：	引火性液体(施行規則第 194 条 3)
毒劇物取締法：	非該当

16.その他の情報

参考文献：	厚生労働省 職場のあんぜんサイト SDS 他 経済産業省 GHS 混合物分類判定システム (国連 GHS 文章改訂 4 版、JIS Z7252：2014) 環境省 化学物質情報検索支援システム
記載内容の取扱い：	記載した内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、以上の情報は新しい知見により、改訂されることがあります。 また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。本製品を使用するに当って、提供された情報を適用するかどうかの最終的な決定は使用者の責任で行って下さい。全ての物質は未知の危険性を呈する可能性があり、ここで示した危険性は起こり得る全ての危険性を網羅したものであるということを保証するものではありません。 以上は情報提供であり、本情報による指示に従って本物質が取扱われているようといまいと、本物質の取扱いによって生じる損害等の結果に対する責任については一切責任を負いません。